

## 【令和5年度 数学科授業改善推進プラン】

数学科で身に付けさせたい力・目指す生徒像

- ・数量や図形などの基礎的な概念や原理、法則について理解する力
- ・事象を数理的に考察し表現する力
- ・数学の良さを実感し、数学を活用して考えたり判断したりする力

学習状況及び課題

	1 学年	2 学年	3 学年
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に集中して取り組む生徒が多い。</li> <li>・数式等の抽象的な内容の理解を苦手とする生徒が見られる。</li> <li>・授業中に理解した内容の定着が不十分な生徒が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒が集中して、授業に取り組んでいる。</li> <li>・計算処理の基礎・基本は身に付いている生徒が多い。</li> <li>・文章を読み取り、数量関係を考えたり、図や表、グラフに表したりすることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受験を意識した取組ができている。ほとんどの生徒が授業に集中して取り組んでいる。</li> <li>・授業中理解できなかった点を個別で質問に来る生徒もいる。</li> <li>・小学校既習内容の理解が不十分な生徒も一部いる。</li> </ul>
学力調査結果	<p>&lt;全国学力調査&gt;                      平均正答率は都平均より3ポイント上回る結果となった。正答数を四分位数で見ると第1～3四分位数すべてについて東京都の値を1.0問ずつ上回っている。領域では数と式、図形、データの活用で高く、評価の観点では知識・技能で高い。正答率が都平均より低かったのは、評価の観点の思考・判断・表現で、0.9ポイント下回っている。特に一次関数で6.5ポイント、図形の証明の問題2.7ポイント下回った。</p>		
指導上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物や身近な例を有効に活用し、イメージをもたせる必要がある。</li> <li>・既習事項を復習する機会を設定し、理解を深め、定着を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で学習したことをその日のうちに復習する習慣を身に付けさせることに課題がある。</li> <li>・計算処理において簡単に計算することができないか考えてから計算を進めさせる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分な思考時間の確保、授業の振り返り時間の確保が必要である。</li> <li>・証明問題など数学的な表現を用いる問題に多く取り組む必要がある。</li> </ul>

改善プラン

	1 学年	2 学年	3 学年
学習面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用語や数式の意味を考える場面を積極的に設定し、基礎的・基本的な力を身に付ける。</li> <li>・自分の考えを他の生徒に伝えることを通して、学習内容のイメージをもてるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読み取り、適切に表現できるようにするために、ステップを踏みながら主体的に課題に取り組めるようにする。</li> <li>・定期的にレポート課題を提出させ、単元の基礎・基本を確認させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学的な表現を用いて説明したり記述したりすることを通して説明力や論証力の向上を図る。</li> <li>・課題を発見し探究するなど協働的な活動を取り入れ、思考力・表現力の向上を図る。</li> </ul>
指導面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で、繰り返し練習する場面を設定し、状況をみてお互いに教え合う活動を促す。</li> <li>・デジタル教科書を活用し、視覚的に理解させ、数学への興味関心をもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別クラス編成の利点を生かし、意欲的に取り組める課題の設定や、やる気を引き出すていねいな指導を行う。</li> <li>・授業の中で、既習事項と現在の学習内容との関連性を取り上げ、復習・確認する場面を増やすことで、基礎・基本の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の考えを引き出したり、粘り強く考えさせたりするため、既習事項の振り返りや発問の工夫、十分な時間の確保を行う。</li> <li>・関数の問題をていねいに扱い、表・グラフ・式を活用できるようにする</li> <li>・後期は模擬テストを行い、習熟度を考慮した問題解決の実践力を身に付けさせる。</li> </ul>

評価

- ①授業の自己評価表による評価
- ②定期テスト観点別学習状況による評価
- ③単元テスト、小テスト、ワークシート、提出物による評価